

東濃社会教育だより No11

— 石井修編 —



恵那県事務所
振興防災課 振興防災係
社会教育担当:長瀬
〒509-7203
恵那市長島町正家後田 1067-71
TEL:0573-26-1111 内線 208

地域学校協働活動推進事業

従事者研修会が開催されました

従事者研修会は「活動中の安全指導や管理」及び「子ども理解」を学び、従事者としての資質向上や事業の充実を図ることを目的としています。今回、65名の従事者が研修会に参加されました。



従事者研修会の様子

日時：10月11日(金) 9:30～12:00

場所：恵那総合庁舎

参加者：65名

対象者：放課後児童クラブ、放課後子ども教室等に関わって活動する従事者

研修内容

【子ども理解】

特別な支援が必要な子への対応

講師：岐阜県立恵那特別支援学校

地域支援センター 久保恭子氏

【安全管理】

自然災害発生時対応

講師：学校安全課 葛西龍朗氏

【子ども理解】



講師：久保恭子氏

研修では、特別支援学校で務められた経験をもとにしてお話されました。「困った子」は、実は見方を変えてみると「困っている子」となることや、発達障がいの特性をよく理解してうまく対応しないと「二次障がい」の恐れがあることを教えて

いただきました。

「障がいとは、個人のもつ問題ではなく、環境とのかかわりの中に生じる人間の生活機能の制約や制限の状態を示す。個人が力を発揮する環境にいるのか否か、その環境の構成員が理解や支援に関する情報をもつか否かにより、障がいは大きくもなれば、小さくもなる」とまとめられました。

【久保氏からの説明：抜粋】

■自閉症スペクトラムの三つの特徴

- ・社会性の障がい
- ・コミュニケーションの障がい
- ・想像力の障がい

■ADHDの三つの症状

- ・多動性・衝動性・不注意

■LDの三つのタイプ

- ・読字障がい・書字障がい
- ・算数障がい

■困った子どもの見方を変えて味方になる

■「注目」の力を利用する

■ほめる・認める支援

■言葉掛けのコツは

具体的に伝える

否定的な言い方→肯定的な言い方

【安全管理】

葛西氏からは、大前提として「自分の命は自分で守る」ことが確認されました。平成時代の災害や事件・事故を振り返りながら、今、学校で行われている安全教育について説明されました。実際に緊急地震速報を聞いたり、子どもの命を守る KYT 研修（キケン予知トレーニング）を行ったりして、多くの学びがある研修でした。



講師：葛西龍朗氏

【葛西氏からの説明：抜粋】

■釜石の奇跡 ～3つの教訓～

・想定にとらわれるな ・率先避難者になれ ・最善を尽くせ

■もし、学校で地震が起きたら？ → シェイクアウト

「テーブルの下」や物が「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」空間に身を寄せ、揺れがおさまるまで様子を見る

■二次災害から子どもの命を守るために

津波、火災、余震、その他の災害（土砂災害、水害、雪害、地盤）

■「行ってきます」と家を出た子どもが、「ただいま」と元気な姿で帰ること (元さいたま市教育長 桐淵 博先生)

地域学校協働活動推進事業

市町村担当者会が開催されました

担当者研修会は、各市町村における放課後や休日の子どもの健全な育成環境の構築を推進するとともに、よりよい地域学校協働活動、放課後子ども総合プラン等の運営の在り方を検討するものです。

大井児童保育所からは、「一日の流れ」「年間行事」「学校、放課後子供教室との連携」等の実践が話されました。サーカスやサイエンスワールド、リトルワールドの見学や親子で行う行事等、盛りだくさんの事業には驚きました。

また、坂祝町教育委員会からは、「坂祝町コミュニティ・スクールを核にした課題解決に向けて」をテーマに、立ち上がりから現状までの取組について実践発表が行われました。参加者からの質問が多く出され、交流会では、それぞれの市が抱える課題について各市の取組が交流され有意義な時間となりました。

日時：10月9日(水) 13:30～16:00

場所：中濃総合庁舎

研修内容

【実践発表】

- ・大井学童保育所
- ・坂祝町教育委員会

【交流会】

運営上の課題と解決方策

【連絡】

地域学校協働活動推進事業補助金
国の動向について